



間人・宮(京丹後)の集落構想プロジェクト「あしたの畑」、2025年夏期公開期間を発表

夏期公開期間：2025年8月9日(土)―9月15日(月・祝)の土・日・月・祝日



「MIYA Tea House 模型」撮影：表恒匡

NPO法人TOMORROW(理事長 徳田佳世)が主催する「あしたの畑」は、2025年8月9日(土)～9月15日(月・祝)に、「あしたの畑 2025: 夏期公開」として、京都府京丹後市間人(たいざ)・宮(みや)地区の4つの展示空間を期間限定で一般公開いたします。

「あしたの畑」は、食とアートを通して人が集まるきっかけと学ぶ場を生み出し、土地が持つ自然の財産に気付く機会を提供していく集落構想プロジェクトです。2020年より間人地区で活動を開始し、5年目を迎えます。

今年は夏期・秋期の2回にわたる公開を予定しています。夏期では、昨年より段階的に作りあげてきた「間人レジデンス」のすべての空間が整い、今回全貌を初公開します。「間人レジデンス」は、現代美術家AAWAAが、表具師、左官職人、和紙職人、木工職人、そしてTOMORROWと共に、その技と京丹後の風土に向き合った、新たな居住空間です。

さらに、5つ目の展示空間となる「MIYA Tea House」の制作プロセスも公開。本作は、ユネスコでの持続可能な建築学教授に任命されている建築家アンナ・ヘリンガーと陶芸作家マーティン・ローチ、TOMORROWの共同制作による半屋外のアートインスタレーションです。間人の土を使い、地元住民や学生たちとあたらしい“食とアートの場”をつくります。

今年度は、画家・荻原美里が描く間人の風景の水彩画をメインビジュアルとし、グラフィックデザイナー・祖父江慎により紙面上で展開します(後日公開予定)。なお、鑑賞はすべてスタッフによるガイド付きツアー形式のご案内となります。チケットは、あしたの畑公式サイトにて6月4日(水)より販売開始。

CREATORS 荻原美里(画家)、嘉戸浩(唐紙作家)、佐藤聡(ガラス作家)、祖父江慎(グラフィックデザイナー)、中川周士(木工作家)、中須左官店(左官)、藤田幸生(表具師)、AAWAA(現代美術家)、Anna Heringer(建築家)、Ken Gun Min(現代美術家)、Martin Rauch(陶芸家)、Sangho Noh(現代美術家)

「あしたの畑」の拠点、丹後町間人(たいざ)・宮について



「あしたの畑」の活動拠点である京丹後市丹後町は、日本海に面した丹後半島に位置し、豊かな歴史と自然環境をもつ地域です。日本海側最大級の古墳や遺跡が多く残され、日本最古の鏡や水晶玉、ガラス製品など、かつての大陸とのダイナミックな文化交流に由来する出土品が多数見つかっています。また、山・川・海が近接する地形は、良質な水と湿度をもたらし、江戸時代以降は「丹後ちりめん」に代表される絹織物の産地として発展。海藻、間人ガニなど海の幸にも恵まれ、魚の発酵食品など食文化も豊かです。「あしたの畑」は、こうした歴史と自然、産業が共存するこの地で、500年後の人々の誇りとなる遺産を生み出すべく、アート・工芸・建築・食の分野から集落環境を提案する活動を続けています。



間人スタジオ

サステナブルな生活の空間を、土地の工法、素材と現代の思考、技法で、今とこれからの居住空間を作り上げる実験的な家屋。木工職人 中川周士による「木の部屋」など、建築と工芸を結ぶ新たな試みを行っています。

場所: 京丹後市丹後町間人2854

中川周士「木の部屋」2022年

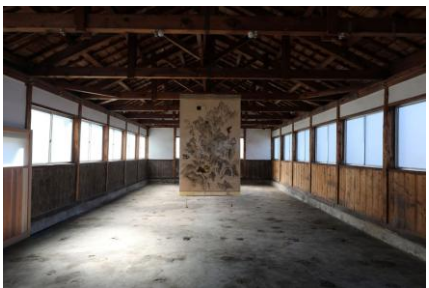


間人レジデンス

自然の素材を最大限に活かしながら、現代の建築を感じるアートハウスであり、居住空間の提案。今後、クリエイターやアーティストが間人で活動する際の棲家になることを目指します。

場所: 京丹後市丹後町間人3332-2

AAWAA「丹」2024年



SEI TAIZA

築60年の丹後ちりめん工場として使われていた建物を、織物の新たな可能性を探る間人初のアートギャラリーとして再活用。

場所: 京丹後市丹後町間人3329

Ken Gun Min「about me living from your last breath」 2024年、SEI TAIZA



宮のあしたの畑 / Field of Stars

リジェネラティブなアート、工芸、建築作品の創造の場となる「Field of Stars」、建築家 西沢立衛による最小建築「納屋」、陶磁器作家 新里明士と加藤貴也による「あしたの畑窯」を展示。

場所: 京丹後市丹後町宮249

「Field of Stars」2023年



MIYA Tea House *2025年秋期公開予定

建築家アンナ・ヘリンガーと陶芸作家マーティン・ローチ、TOMORROWの共同制作による半屋外のアートインスタレーション。間人の土を使い、地元住民や学生たちとあたらしい“食とアートの場”をつくります。

2025年夏期は、制作プロセスを公開。

開催概要

名称	あしたの畑 2025: 夏期公開
会期	2025年8月9日(土) — 9月15日(月・祝)の土・日・月・祝日 *火～金曜 休み 11:00-17:00 最終入場 16:00
会場	間人スタジオ、SEI TAIZA、間人レジデンス、宮のあしたの畑
参加作家	荻原美里(画家)、嘉戸浩(唐紙作家)、佐藤聡(ガラス作家)、祖父江慎(グラフィックデザイナー)、 中川周士(木工作家)、中須左官店(左官)、藤田幸生(表具師)、AAWAA(現代美術家)、 Anna Heringer(建築家)、Ken Gun Min(現代美術家)、Martin Rauch(陶芸家)、Sangho Noh(現代美術家)
鑑賞料	1,000円(全会場共通) 1時間ごとのツアー制／要事前申し込み 〈宮のあしたの畑〉の作品は常時自由鑑賞、無料
アクセス	京都市内から車で約2時間
主催	NPO法人TOMORROW、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
委託	令和7年度日本博2.0事業(委託型)
助成	森村豊明会
公式サイト	https://tomorrow-jp.org/program/2025summer/
チケット購入	https://square.link/u/20G8pcnU

JAPAN
CULTURAL
EXPO 2025



NPO法人 TOMORROW / あしたの畑



NPO法人TOMORROWは、芸術文化活動を核とする非営利団体。

「感動すること」を最上位の価値として定め、芸術文化活動を通し、豊かな心を育み、平和な国際社会を築く一因となることを目的とします。

2020年より京都北部の京丹後市間人地区にて開始した活動「あしたの畑」は、国内外で活躍するアート(建築・工芸などの表現を含む)と食のプロフェッショナルたちが、分野を超え、都市部では得られない地域の立場から、未来に引き継ぎたい日本の美しい景色を文化芸術的アプローチによって創造していくことを目指します。

Website <https://tomorrow-jp.org/tomorrow/>
Instagram [@tomorrow_field](https://www.instagram.com/tomorrow_field)